

平成26年10月

保護者の皆様

京都市立下鴨小学校学校運営協議会
「開かれた学校」委員会
委員長 中村暢宏

平成26年度 学校評価（前期）の結果に寄せて

平素より学校運営評議会へのご理解とご協力を頂きありがとうございます。本年度前期の学校評価の結果を集計し、その分析を致しましたのでお知らせ致します。回答率は76%であり、昨年度の84%よりは下がっておりますが、24年度:78%、23年度:73%であることを考えるとほぼ平年並みと言って良いでしょう。

さて、今年度も昨年度と同じ項目で、その実現度についてご回答いただきました。例年のように、保護者の評価と学校（教職員）の評価を対比させつつ比較検討し、また、保護者のご意見は昨年とも比較しております。学校生活についての子どものアンケート結果についても集計、分析いたしました。結果は別紙にグラフ付きでまとめておりますので、ご覧ください。

ほとんどの項目において肯定的なご意見が多く、また昨年度と比較しても改善が見られました。強いて問題点を挙げますと、安全・教育環境の項目で否定的なご意見が昨年度に比べて多少増加傾向がありました。現在のところ、大きな問題は見当たりませんが、安全と環境は最も重要な点ですので今後も注目して行きたいと思えます。また、体力向上の取り組みについても同様の傾向が見られました。本年度は体育および体力向上は学校の重点取り組みの項目であるということです。先生方も勢力的に取り組んでおられる様子ですが、保護者の目にはまだ届いていないようです。来年度に向けて、その成果が保護者の方々の目にも見えてくることを願っています。

毎回ご意見を頂くトイレの問題。学校からも教育委員会を通じて市に改修を要望しているところですが、予算の問題でなかなか対応できないようです。公共機関や民間のトイレの環境が格段に良くなったことと比較して、小学校のトイレが改修されず、全時代の遺物と言ってもおかしくない状況になっていることは、大変残念なところです。委員会でも今後も引き続き方策をねって行きたいと思えます。

下鴨小学校がコミュニティ・スクールとなってから、今年で7年目を迎えました。コミュニティ・スクールは、学校教職員と保護者、地域住民などが議論しながら力を合わせて学校運営を行うことが特徴です。学校運営協議会は、学校、保護者、地域住民などを代表する人々で組織されており、コミュニティ・スクールの要として、小学校の運営やその方針決定に参画し、子どもたちが楽しく元気に学べる学校環境の維持と改善に努力しています。学校教職員と保護者の間の信頼関係を築くことは、学校を円滑に運営していくために必須の要素となります。そのためには、学校教職員と保護者がオープンに対話・議論できる環境を構築することが必要です。学校評価アンケートは保護者と学校教職員が対話する大切な場の1つです。アンケートに記名欄を設けておりますのは、保護者の方々にも顔の見えるコミュニティ・メンバーとして学校運営に参画して頂きたいとの意図が込められています。保護者の方々におかれましては、お忙しいところ恐縮ではありますが、コミュニティの一員として、これからも学校評価アンケートで忌憚りの無いご意見をお寄せ下さいますようお願い申し上げます次第です。学校運営協議会では、保護者の方々のご意見にできるかぎりお答えできますように学校教職員とともにこれからも努力して参ります。